

次回研究発表大会予告

第 27 回国際 P 2 M 学会春季大会は、

2019 年（新元号元年）5 月 18 日（土）

早稲田大学早稲田キャンパスで初開催！！

大会テーマは「P2M による社会問題解決（地域から国家，アジア，グローバルへ）」

早稲田大学 岡田久典、永井祐二

10 月 20 日秋季大会会場で開催された国際 P 2 M 学会理事会・評議員会において、第 27 回国際 P 2 M 学会春季大会が 2019 年 5 月 18 日（土）早稲田大学早稲田キャンパスで開催されることが承認されました。

また、同時に大会は早稲田大学環境総合研究センターとの共催で行うこと、実行委員長・副委員長に岡田・永井の両名を充てることが併せて承認されております。

早稲田大学での開催は初めてですし、今回使用される早稲田キャンパスは、政治経済学部、法学部、商学部、MBA 等の教室群が中心で、例年理工系の大学学部で開催されることが多い本学会にとっては新たな経験となります。

こうしたことから、今回テーマとして「P2M による社会問題解決（地域から国家，アジア，グローバルへ）」を掲げさせていただきました。

P2M は経済・経営の各局面のみならず、地域課題から国家的な課題、アジア・グローバルな課題解決の基盤手法として

その重要性が様々な場所・地域で語られるようになっていきます。Society5.0、SDG（持続可能な開発目標）に代表される次世代への見通しをクリアにするためにも、実践に基づき個々のプロジェクトをプログラムを通じてマネジメントするための科学「P2M」学の適用範囲を飛躍的に拡大させることは、P2M に直接携わる者だけではなく、各分野のリーダー・イノベーターが参画すべき課題であるといえましょう。

今回の大会は、記念すべき新元号スタートの時期に当たり、ますます深刻化する自然災害への対応・国土レジリエンスの強化、少子高齢化に起因する地域福祉問題など様々な問題などを含めた地域課題からわれわれの将来を規定する Society5.0、SDGs 等グローバルな課題まで、P2M をどう適用していくか、普及していくか、産業界での取り組み、そして大学における P2M の存在感を大きく高める節目の年になると確信し、P2M が果たすべき役割を改めて認識する場としたいと考えております。

P2M マガジン No. 6, pp.25-26 (2019)

開催場所の詳細、プログラムは追って発表されますが、午後に予定されております、基調講演、パネルディスカッションのテーマ、登壇者についても、本大会の開催趣旨を踏まえて社会課題の解決を意識したものになる見込みです。

早稲田キャンパスのアクセスは、「数万人（学生数）」を収容するだけに、東京メトロ東西線の早稲田駅、山手線高田馬

場駅から都バス乗り換え等豊富でかつ便利で、昼食も近隣に多くの食堂が存在します。

また、大会終了後の懇親会も学内で開催予定です。

緑まぶしい早稲田の杜で、会員の皆様方のご参加をお待ちしております。

2018年11月25日受理